

第2学年 社会科学習指導案

2年2組 男子23名 女子17名 計40名

指導者 早川 晃央

【授業】13:30~14:20 会場 2年2組(3階)

【協議会】14:30~15:20 会場 マルチ教室(3階)

1 単元名 「近代化」する日本

2 単元について

(1) 単元設定の趣旨

本単元は、現行の中学校学習指導要領の歴史的分野の大項目C中項目（1）「近代の日本と世界を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現すること」を目標としている。平成20年度告示の学習指導要領から「我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解する」というねらいが記載されるようになり、それぞれの時代における「大観学習」は「確かな理解と定着を図る」上で重要であると示されている。

本単元では近世から近代への移行期、特に、近代前半と言われる日本の近代化が始まった時期を取り扱う。高等学校では、令和4年度から現行の学習指導要領が施行され、「歴史総合」が必修となった。歴史総合では、大きく「近代化」「大衆化」「グローバル化」が取り扱われる。そのため、中学校における近代の「大観学習」においても「近代化」を重点的に扱うことは、中高接続の点から見ても有意義であると言える。

しかし、一口に「近代化」と言っても、その定義は難しい。学習指導要領解説には、「この時期(19世紀ごろから20世紀前半)の我が国は、欧米諸国のアジアへの進出など複雑な国際情勢の中で開国し、急速な近代化を進めて近代国家の仕組みを整え、その後常にアジア諸国や欧米諸国と密接な関わりをもってきた。」とあり、身に付けるべき知識として、「(ア) 欧米における近代社会の成立とアジア諸国の動き (イ) 明治維新と近代国家の形成 (ウ) 議会政治の始まりと国際社会との関わり (エ) 近代産業の発展と近代文化の形成 (オ) 第一次世界大戦前後の国際情勢と大衆の出現 (カ) 第二次世界大戦と人類への惨禍」の6点を挙げているものの、「近代化」の定義に関する説明はない。それは、教科書についても同様で、本校が使用している帝国書院「中学生の歴史」の「明治政府による『近代化』の始まり」という節の見出しのページには、「(新政府は)『欧米諸国にならって近代的で産業の盛んな国家づくりに取り組みました。』等の概略を示す記述はあるが、「近代化」とは何かについて、説明はなされていない。

「近代化」の定義を考察する中学校社会科の先行実践では横浜国立大学教育学部附属横浜中学校での議実践がある。議(2024)は「『近代化』という語句は、近代史について課題を追究したりそれを表現したりする上でとても使いやすい語句である一方で、十分な理解がないと安易に使われてしまう可能性のある語句でもある。」と指摘している。そして議は「『近代化』の語義については、辞書や辞典、生成AIの活用等によって生徒たち自身で容易に調べることが可能であるが、その説明は要素が書き並べられるのみであったり中学生にとっては難解であったりするものが多い」ことから「生成AIに負けるな！『近代化って何ですか？』」という単元を貫く学習課題を設定している。

生成AIの学校現場での使用については賛否ある。生成AI利用の際の年齢制限とともに、使用について保護者の許諾が必要であり、学校現場で一斉に使用することが難しい面がある。しかし社会全体で、生成AIが様々な場面で用いられており、生徒自身が今後の社会を生きていく上で、生成AIを使わずに生きていくことは現実的ではない。そのため、生成AIの使用場面を見定め、プロンプトの出し方等も含めて、うまく活用し、生成AIへのリテラシーを高める意味でも、本単元では、生成AIを活用して、「近代化」の定義を考察する授業を提案したい。なお、本単元では、本校がプラットフォームとして導入しているGoogle社の「Gemini」を使用することとした。

「近代化」について、小学校の教科書では、東京書籍・日本文教出版・教育出版の3社に共通して、不平等条約の改正を説明するページに、「日本の近代化の遅れ」が原因で、不平等条約の交渉が難航した旨の記述がある。それ以外に、最も多くの本校生徒が使用していた東京書籍の教科書に、「帰国した大久保らは、近代的な工業(機械による大量生産)を始めるために、外国から機械を買い、技師を招き、製糸、紡績、兵器製造などで、国が運営する官営工場を開きました(殖

産興業)。」とある。これらを踏まえて本単元では、次の事項を「近代化」を形作るものとして、生徒に身に付けさせたい。いずれも欧米の列強に倣ったものであるが、まずは小学校の既習事項である殖産興業である。それに付随するものとして、経済面で渋沢栄一に代表される資本主義の普及、税制面で財政を安定化させるための地租改正、また、集めた税を元手に富国強兵を目指す軍事費の拡大も「近代化」の要素としたい。政治面においては、議会制民主主義の確立、古代以来の中央集権体制の確立、近代以降の法整備による立憲主義の確立が挙げられる。他に、文明開化によって欧米の生活スタイルを取り入れたり、国民教育によって国民の知識水準を引き上げたりすることで、主体的に国家運営に参画する「国民意識」(延いては、戦争へつながるナショナリズム)をもたらせることも「近代化」に必要な要素といえる。なお、「国民意識」に関連することとして、現在の沖縄県や北海道を領土に組み入れた領土の画定も挙げられる。

このように「近代化」の要素を挙げていくと、生徒にとって「近代化」を定義付けることは難しい。そこで、生徒には「近代化」を表す絵を作成させ、それを基に話し合う授業を通して、「近代化」についての理解を深めていく授業を行いたいと考えている。

(2) 生徒の実態

地理・歴史的分野ともに、単元のはじめに社会的な見方を働かせ、「どのような」「どのように」といった基礎的・基本的な社会的事象を確認する学習を行う。それを基に、「社会的な考え方」を働かせ、「なぜ」といった課題に取り組むことで、原因や仕組み、法則などの概念的知識を獲得する学習を行っていく。そして、単元の終わりに「どちらにすべきか」や「最も重要なものは何か」といった課題に取り組み、価値的知識を獲得する学習を行っている。特に、討論を学習活動に取り入れることで、社会認識形成を期待している。その理由は、討論を通して、自分の意見を発言したり、他者の意見を聞いたりすることで、全体での議論を深める過程において、自分の立場との共通点や相違点について社会科の「見方・考え方」を働かせながら比較・分類することが可能であり、異なる視点や価値観に気付くことができるからである。そのため、思考力・判断力・表現力等を育む効果が期待される。また、日々の授業では、トゥールミンモデルによるワークシートを、価値判断や意思決定する学習では、松下(2022)が提唱するトゥールミンモデルを応用した「対話型論証モデル」を用いることで、生徒が逆の立場の主張を加味した上で、自らの主張を行う。そして、対話を通して考えを深めることで、論理的に主張する力を生徒には引き続き身に付けさせていきたいと考えている。

本学年の生徒には1年次から、歴史を大観する学習について、それぞれの時代で異なるパフォーマンス課題に取り組ませてきた。古代では、架空出版社の社員として、「『古代～〇〇な時代～』という本のタイトルを提案しよう」という学習課題を立て、古代の特色について話し合う活動を行った。また、古代と中世の相違点に気付かせるための課題として、教科書の飛鳥時代から鎌倉時代の記述に見られる「力」とつく語句を抜き出させた上で、「教科書の『力』を、『力』を使わずに表すとどのように言い換えることができるか」という学習課題を立て、古代の為政者は権力に基づく支配だったが、中世になると武力によって権力を獲得した為政者が多く登場したことを生徒は学んだ。(ここに挙げた2つの学習課題は、教育実習生が行った。) 中世を大観する学習は、本校に入学を希望する小学校6年生が訪れる学校説明会の時期であったことから「小学生にも分かるように中世の特色を四コマ漫画で表そう」という学習課題を設定した。古代に引き続き、政治・経済・外交・文化・その他(村など)の視点を与えた上で、それぞれが作成した四コマ漫画を基に話し合う活動を通して、中世の社会の仕組みを生徒は学習した。また、長期休暇中の課題として、中世は「武士と天皇が権力争いを繰り返した時代である」という特色に特化したカードゲームの作成を行わせ、中世の人物やできごとが社会に与えた影響の大きさからカードの強さを吟味する活動を通して、生徒は中世の理解を深めたと考えている。2年次になってから行った近世の学習では、近世を表す劇(グループ課題)または狂歌2首(個人課題)を提出させ、それに基づいて時代の特色を見いだす活動を行ってきた。特に、近世の活動は、本単元で行うE.W.アイスナーの美的アプローチによる社会科の学習評価論の理論を表面的に取り入れた教師のフィードバックを取り入れた。例えば、近世の特色を表す劇の発表の冒頭で、以下のやりとりをした生徒がいた。

アメリカ人 「日本の江戸時代の様子を教えてください！」

明治新政府の役人「かしこまりました。江戸時代の将軍の支配の様子についてお見せします。」

ここで教師のフィードバックとして、「なぜ、新政府の役人がアメリカ人に敬語で話したのか」と問うと、生徒から「当時の日本人がペリーーやアメリカ船をとても怖がっていたと小学校で習った

ので、びびっている様子を表した」と答えた。このようなやりとりから、劇のセリフの細かい部分からも、歴史の捉え方を表現できることを説明している。

このように、それぞれの時代（単元）の導入で、「単元を貫く課題」としてパフォーマンス課題を提示して、生徒は解決のために学習を進めてきており、毎時の学習がそれぞれの時代の特色とどうつながりがあるかを考えながら学習する生徒は増えてきた。一方で、これまで課題解決のために、生成AIを用いる生徒はいるものの、教師の側から提示する時代を大観する学習課題に生成AIを用いる生徒はいなかった。クロムブック導入以降、急速に進む学校のDX化の中で、どのすれば効果的に生成AIを学習に活用できるかを検討すべく、本単元の学習課題を設定した。

（3）指導の構え

本単元は、近代の特色を見出すべく、生徒の定義に基づく「近代化」を表す絵を作成させ、それらを持ち寄って、鑑賞したり解釈したりすることで、近代を多面的・多角的に理解させることを目的とする。岡田(2023)は、E.W.アイスナーの評価論を紹介する形で、「ダンス、音楽、絵画、彫刻、建築、演劇、大衆芸術、写真といった表現形式を用いれば、言語では表せない内容を提示することが可能となる」。それらが社会科に与える影響として、教科書のみの知識の伝達では、生徒の学ぶ内容が大きく制限されるが、多様な表現形式を用いることで、個人の感覚システムを用いた理解の深まりが期待できること、また、限定的な表現形式で教える内容を制限する社会科の授業では、その課題や表現形式が得意な人とそうでない人で、公平性が保たれないため、評価の公平性を保つためにも多様な表現形式を用いる必要があることを指摘している。

本単元で用いる表現形式は絵画とした。理由として、近代は他の時代と比べ、ジョルジュ・ビゴーに代表される風刺画が教科書や資料集に多く掲載されており、風刺画を含む絵画は時代のイメージをつかむ上で有効であることが挙げられる。ただ、「近代化」の絵を作成する場合、盛り込むべき要素が多く、知識を構造化しづらいため、生徒の中で羅列的にある個別的な知識を構造化する手立ての一つとして生成AIを活用したい。

生成AIを用いた実践について松野(2024)は、「(対話型AIによって)生成される文章は生徒が期待する内容や自分らしさとは違った文章になることが多く、そこにギャップが生じます。その際に新たに指示を付け加えることで、イメージしている文章により近い内容の文章を生成することができるようになります。生徒は自分の思い描いたアイデアや表現に近づける体験ができます。このプロセスを繰り返すことにより、自分の意図を伝える力や創造性、論理的思考を引き出す機会になります。」としており、授業の中に、生成AIを用いる有用性を指摘している。

一方で、生成AIを用いることで、自分の考えをもたずに授業に参加するが容易になるため、その生徒の「近代化」に対する知識がどの程度反映されているかを見取ることは難しい。そのため、本時の授業では、各自が生成AIに作成させた絵画を持ち寄り、それを根拠とした「近代化」の特徴についての話し合いを行うことで、生徒一人一人の理解の深まりを期待したい。

3 研究主題・副題との関連

本校の研究主題である「主体性の高まりをめざす課題学習」と関連し、小学校での既習内容から理解しているはずの「近代化」という概念を、さらに深められることに気付いた生徒が、より深く追究したくなるような学習課題を設定した。

また、小中の接続を意識したパフォーマンス課題を設定したり、E.W.アイスナーの評価論を用いて、表現方法を多様化したりすることで、「書くこと」が苦手であったり、社会科に苦手意識をもつていたりする生徒もすんで追究したくなるような単元構成を行った。

また、研究副題「学びの往来を通して、『自立した学習者』を育成する」に関して、次頁の仮説を立てて授業を構想した。

（1）自立した学習者像について

本校が「自立した学習者」に着目した背景に、令和3年1月の中教審答申「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」(以下、令和答申)において、コロナ禍の一斉休業期間で、自ら学ぶことができない生徒が、一定数いることが明らかとなり、これまでの学校教育では「自立した学習者」を十分に育成できていなかつたのではないかと指摘されていることがある。そこで本校では、究極的な「自立した学習者」像を校訓（「自分で考え自分で計画し勇気をもって実践しよう 己にうちかち他を愛し

真善美を求めるよう」の姿としている。その具体像として、職員研修会では、各教員が考える（育成したい）自立した学習者の姿を出し合い、最終的に本校生徒の実態を踏まえ、次の3点とした。

①目標に向かって探究できる生徒②他者と協働して成長できる生徒③自分自身の学びを振り返り、次に活かせる生徒である。

また、生徒への回答を集約した、生徒が考える「自立した学習者」の姿として、①学習サイクルを主体的に回せる人②自らの考えをもち、他者との交流を通じて学びを深められる人③自己を深く理解し、意欲的に行動できる人の3点と仮定した。（最終的には、教師の目指す姿と生徒が目指す姿を統合して、本校における「自立した学習者」の定義としたいが、研究初年度の現在、そこまでは至っていない。）現在は、教師・生徒それぞれが考える「自立した学習者」の姿になるために、各教科の授業実践で身に付けられる資質・能力を明らかにして、教師は日々の授業を行っている。

本校社会科では、教科の本質を「科学的社会認識形成を通して、市民的資質を育成する教科」と捉えており、合理的判断を基に、市民としてふさわしい行動ができる資質・能力の育成をめざしている。そのためには普段から責任をもった選択・判断、根拠や理由付けに基づく主張する場面を取り入れた授業を行っている。社会科の授業を通して、育成されるこれらの資質・能力が、教科横断的に取り組む「総合的な学習の時間」や特別活動、生徒の自治活動の中で発揮されることで、本校が目指す「自立した学習者」像に近付いていくと考えている。

学校全体の取組としては、「自立した学習者」を育成する手立てとして、「自己調整学習」（定義についてはジマーマン提唱のとおり）が必要であるという考え方から、今年度の授業では、「自己調整学習」の中でも、とりわけ生徒がメタ認知する場面（図2）を意識的に取り入れた授業実践を行っている。

本单元では、单元の導入に、单元を貫く問い合わせとして、パフォーマンス課題（図3）を提示する。合わせてプリテストとして、生徒のレディネスを把握する。生徒は、小学校での既習事項を振り返りながら、「近代化」の定義を考え、自分に足りない視点を把握したり、最終的に「近代化」を定義づけることがこの单元の目標であることを理解したりする。そして、第2次以降、小学校での既習事項どうしの因果関係を見いだしたり、それに付随する新たな知識を身に付けたりする。同時に、各授業の終末では、振り返りのワークシートに、单元を貫く問い合わせの答えを記入する時間を設けることで、生徒のメタ認知的モニタリングを促しつつ、次時以降の学習の視点を明らかにするメタ認知的コントロールを行えるようにする。

図3 単元を貫くパフォーマンス課題

あなたは、小学6年生から質問を受けました。次の（　）に当てはまるセリフを、説明する絵とともに考えてください。

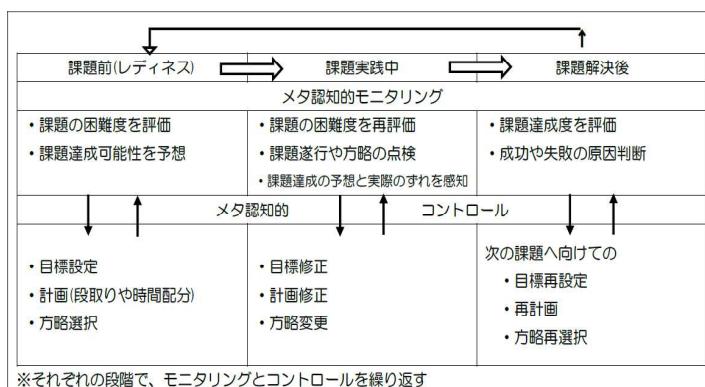
小「小学校では、不平等条約の改正が、日本の近代化が遅れていためなかなか交渉が進まなかつたって習ったんですけど、近代化ってどうなることですか？」

中「小学校では、殖産興業のところで、機械による大量生産を近代的な工業って習うよね。それ以外にもいろいろあるからこの絵を見て。近代化した国っていうのは、（　）国のことだよ。」

小「なるほど！よくわかりました。ありがとうございます。」

公開する本時では、一人一人の生徒が描いた「近代化」の定義を表す絵を用いて、話し合う。話合いによって「政治」「経済」「外交」「文化」に分類した事柄を、さらに整理・構造化する指示を出す。その際、挙がった事柄を構造化しながら「近代化」とは何かについて仮想的教示する活動を取り入れることで、生徒のメタ認知を促す。仮想的教示の活動の中で、よく分からぬ事柄を互いに補い合ったり、他者との考え方の違いに気付いたりしたことを踏まえて、各自でパフォーマンス課題の答えを表現する。

図2 学習におけるメタ認知 三宮(2008)より作成



終末では、本時で行う全体での話し合いやペアでの活動等、他者との関わりが個の「近代化」の定義の深まりにどのような影響を及ぼしたかを振り返るメタ認知的モニタリングを取り入れた振り返りを行うことで、学習の自己調整を促し、「自立した学習者」を育成する一助としたい。

なお、令和答申の「高等学校教育」の項目には、「主権者の一人としての自覚を含めることを含め、自立した『大人』として振る舞えるようになることが期待されている」という記載がなされている。明治の近代国家以降、選挙制度が日本に導入され、初期の選挙では、国民の約1%ではあったものの選挙権が与えられ、自立的な「選択」が迫られたといえる。これが現在の普通選挙につながっていることから、明治の「近代化」以降、国民に「自立」の必要性が見出されたことについても、授業の中で取り上げたいと考えている。

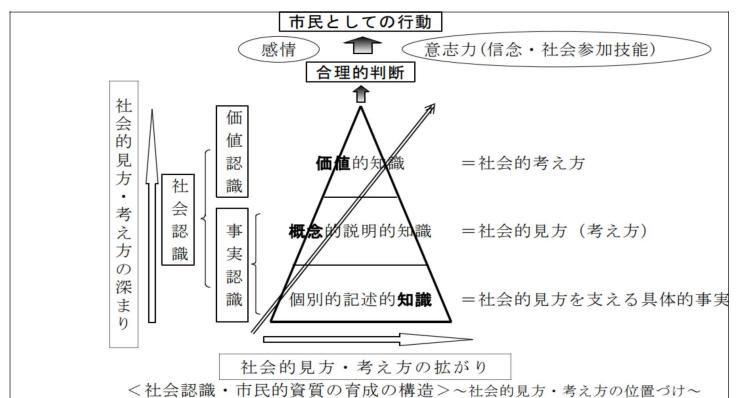
(2) 学びの往来について

本校では学びの往来を、①学習形態として個と協働の往来②教師と生徒の間の学びの主導権（イニシアティブ）の往来③生徒の省察や自己内対話における今の自分と過去の自分の往来の大きく3種類あると捉えており、①～③はそれぞれ、相互に関連し合い、単元を通してすべてを網羅する考えている。

本校社会科では、これまで岡崎（2013）が主張する「社会認識・市民的資質育成の構造」（図4）に基づいて社会的な「見方・考え方」を働かせながら知識を身に付けさせる単元構成を行ってきた。その過程で、①個別で読み取った資料の内容や解釈したことを他者に説明したり、話し合ったりしながら、より高次な知識を身に付けてきた。また、市民的資質を身に付けるパフォーマンス課題等においては、生徒に学びのイニシアティブを委ねて探究活動を行つたり、生徒に学び方を選択させたりしてきている。そして、単元を貫く課題に対し、毎時間の振り返りを記入するワークシートを用いて、考えの変遷をメタ認知したり、学びの自己調整を促したりしてきた。

公開する本時では、前時までに個人で作成していた絵を用いて、学級全体で「近代化」の定義を話し合う。それを基に、個の歴史観を形成すべく、それぞれの「近代化」の定義を考察する時間を設ける。学習形態を工夫することで、本時のなかでの個の歴史観の深まりを期待し、その様子を見取りたいと考えている。

図4 社会認識・市民的資質育成の構造



4 単元の目標

- 他の時代と比較した近代の特色になり得る歴史的事象を基に、それぞれの事象の意義や目的を理解したり、共通点や相違点を資料から読み取ったりすることができる。 【知識及び技能】
- 歴史的な見方・考え方を働かせて近代前半を大観し、他の時代と比較して気付いた近代化の定義について、作成した図を用いて、説明することができる。 【思考力・判断力・表現力】
- 既習事項を振り返りながら、近代化の定義について、仮説を立てながら主体的に追究・解決しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】

5 学習指導過程（全6時間）※本時に関わる部分のみ抜粋

- 第1次 「近代化」に向けて、明治政府はどのような政策を行ったのか…………… 2時間
 - 第2次 日本の「近代化」をビゴーらはどう描いたのだろうか…………… 1時間
 - 第3次 日本における「近代化」をどのように定義すればよいだろうか…………… 3時間(3/3 本時)
- ※ポストテストのみ、次時に行う。

	教師による指示・発問	教師と生徒の活動	生徒の反応
第一	1 小学校の既習事項を想起して、「近代化」の定義を書いてください。（プリテスト）	T：指示する。 S：答える。	・わからない。 ・富国強兵。解放令。文明開化。

次 「近代化」に 向けて、明治政府はどのような政策を行ったのか。	2 この単元では、小学生に「近代化」の定義を、各自が作成した絵を用いて答えられるようにすることを、単元を貫く課題とします。 (スライドを用いてパフォーマンス課題の提示)	T : 指示する。	徴兵令。地租改正。学制。など個別の知識にとどまる。
	3 明治政府は、近代化に向けて、どのような政策を行いましたか。	T : 発問する。 S : 答える。	(上記の政策の他に) ・五箇条の御誓文を出す。 ・首都を江戸から東京にした。 ・中央集権国家を目指した。 ・岩倉使節団を派遣して、欧米の進んだ政治や文化を学んだ。 ・議会をつくり、政党政治を行った。 ・教育勅語を出した。 ・殖産興業によって、産業の機械化を進め、輸出品を増やした。 ・通信や鉄道網が新たに誕生した。 ・福澤諭吉や中江兆民に代表される啓蒙思想が日本に紹介された。 ・日朝修好条規を結び、対外的に初めて対等な条約を結んでいる。 ・徴兵令や地租改正については一揆や反対運動が起こった。 ・学制は地域で学校建設をしなければいけないところもあり、すぐには就学率は上がらなかった。 ・これまでの時代と同様、地方の生活はすぐには変わらなかった。 ・政党に所属したり、自由民権運動に参加したりする人もいた。
	4 江戸時代までの近世（前近代）と大きく違う制度や文化の中で、人々の反応はどうでしたか。 (答えが難しい場合には、適宜資料を提示する。)	T : 発問する。 S : 答える。	・樺太千島交換条約を今のロシアと結んだり、琉球処分を行ったりして、沖縄県や北海道を日本の領土とし、日本の範囲を確定させた。 ・アイヌや琉球に対して、日本が優位に立とうとしていた。 ・議会制民主主義を取り入れた中央集権国家の状態。 ・欧米にならって植民地を拡大していくこと。 ・人々の生活様式が欧米化していくこと。 など
	5 対アジア各国やアイヌ、琉球に対してはどのように向き合っていますか。	T : 発問する。 S : 答える。	
	6 「近代化」とはどのような時代だろうか。(ふり返りシートへの記入)	T : 発問する。 S : 答える。	

第二次
日本の「近代化」をビゴーはどのように…

※第3次では、自分たちで、絵を描くことを踏まえて、フォトランゲージを通して、近代化への理解を深めることを目標とする。

7 この絵（社交界に出入りする紳士淑女）の絵を知っていますか。

8 これは何を描いていますか

9 絵の左上には、「名磨行」と書かれていますが、どういう意味ですか？

10 そうですね。「生意氣」とあえて直接書かずに、「名磨行」と表現していますね。このような皮肉を交えて描いた絵をなんと言いますか。

11 ちなみにビゴーの鹿鳴館を描いた絵には、これ（「月曜日の鹿鳴館」）もあります。

12 ここまで絵を例に、今日は、当時の風刺画や絵画から当時の日本を読み取りましょう。



- ・『ビゴーが見た日本人』
- ・『ビゴー素描コレクション』より抜粋

13 配付資料の絵からどのようなことが読み取れますか？

14 ビゴーの絵は主に当時の外国人にしか広まっていないことから差別的に描かれており、時にビゴーが自分自身を異質な存在と捉えていたりする部分があるかもしれません。その上で、当時の日本人にとって、近代的なものは何が異質だと感じていたと思いますか。

15 ビゴーはさげすんだり、馬鹿にしたり

T：発問する。

S：答える。

T：発問する。

S：答える。

T：発問する。

S：答える。

T：発問する。

S：答える。

T：発問する。

S：答える。

T：指示する。



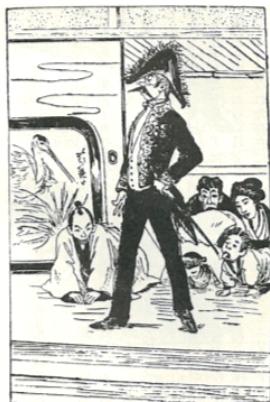
- ・知っています。小学校で習いました。

- ・鹿鳴館で踊る男女を描き、日本人の踊りが滑稽な様子を描いています。

- ・わかりません。

- ・「なまいき」と読みます。

- ・風刺画です。



- ・床に座っていたり、煙草の灰を落としていたりしています。

- ・この絵にも右上に「名磨行」と書いてあります。

T：発問する。

S：答える。

T：発問する。

S：答える。

T：発問する。

- ・日本が欧米諸国に丁寧な姿勢で政治の仕組みや文化を教わっている。崇拜している。

- ・言論統制をしていて、自由で平等とはほど遠い。言っていることとやっていることと違う。

- ・日本国内の様子を欧米人は馬鹿にしているように見える。

- ・江戸時代の生活様式を貫く人の肩身が狭そう。

- ・ダンスは踊りづらく、洋服は着ていて違和感がある。

- ・スーツに風呂敷など、前近代まで普通だったものを使わずに生活することが難しい。

- ・欧米の生活スタイルに合わせて生活することが疲れる。

- ・欧米の真似をするばかりで、

	<p>して（←この表現は、生徒から出た言葉を用いる）日本を描き、日本人も欧米のスタイルにすぐに順応できたわけではないことを学びました。ビゴーが当時の近代化を目指す日本に足りていないと感じていたものは何でしょうか。</p>	S：答える。	<ul style="list-style-type: none"> 日本の独自性やこれまでの歴史を踏まえていないこと。 制度や生活様式ばかりが先行していて、国民がその生活に順応できていないこと。 国民が制度に一揆を起こしたり、反対運動が起こったりしているように、制度の表面だけを捉えていて、国民の生活や実情を考えられていない点。国民にとってよい政治となっていない点。
	<p>16 前時までに学習した明治時代の政策と合わせて考えると、近代とはどのような時代だと考えられますか。</p>	T：発問する。 S：答える。	<ul style="list-style-type: none"> 聖徳太子が目指したような古代の中央集権国家と同じだと思っていたけど、そのときと学んだ国が違うし、欧米は日本のことを馬鹿にしていたように映るから欧米を真似た時代。 日本が対等な関係ではなく、欧米に対して下手に出ている。 幕府の政治からの脱却を図ろうと、明治政府の必死さが伝わってくる。
第三次 日本における「近代化」をどのように定義…	<p>17 ここまで話を踏まえて、日本の「近代化」に必要な要素を書き出してみましょう。 ※これまでの時代と同様、政治・経済・外交・文化・その他の面に分けたワークシートを配付して、自由に書き出させる。</p> <p>18 他の人との意見交換を通して、自分の考えをまとめましょう。</p>	<p>T：指示する。</p> <p>T：指示する。</p>	<p>政治</p> <ul style="list-style-type: none"> 大日本帝国憲法の制定による、近代国家としての法整備 廃藩置県などの政策による、幕藩体制から中央集権国家への移行 アジアで初めて政党政治の確立と議会制民主主義の導入 <p>経済</p> <ul style="list-style-type: none"> 殖産興業政策により、官営模範工場の設立や鉄道・電信などのインフラ整備 工業の機械化による合理的かつ機能主義による資本主義経済の確立 現金での納税による財政基盤の安定化 列強への対抗を目的とした経済力の強化し、軍事力の増強 <p>文化</p> <ul style="list-style-type: none"> 兵役の義務化による軍事力の強化 統一的な義務教育による教育水準の向上（学制） 衣食住の欧米化に伴う生活様式の変化。 ナショナリズムの形成
	19 自分の中での「近代化」の定義を記し	T：指示する。	

	た上で、「近代化」を表す絵を作成しましょう。自分で描ける人は、手書きでもかまいません。		
本時は、6 (2) 展開参照			

6 本時の学習（全6／6時間）

(1) 指導目標

- 「近代化」する日本について、工業の進展や政治と社会の変化、経済の変化による政治への影響など多面的・多角的に考察させることで、古代や近世と異なる「近代化」の定義を表現させる。
【思考力・判断力・表現力】
- 生徒それぞれが考える近代の特色を表現するために、必要な資料を考察したり、収集した情報を歴史的な見方・考え方を働かせて読み取ったりまとめたりする活動を通して、「近代化」の説明に必要な要素を理解させる。
【知識・技能】

(2) 展開

学習活動と予想される生徒の反応	指導上の留意点
<p>1 【個】教室の壁面に貼ってある絵を見てまわり、各自で、前時に作成した日本の「近代化」の絵と合わせて、個人の「近代化」の定義を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 前時までに「近代化」を説明する上で必要な絵を作成させておく。また、教室にも掲示しておく。
日本における「近代化」をどう定義すればよいだろうか	
<p>2 【全体】自分が作成した絵や他者の絵を用いて、「近代化」を定義する中で、必要な要素を説明する。</p> <p>政治・外交</p> <ul style="list-style-type: none"> 立憲主義の確立 <ul style="list-style-type: none"> 大日本帝国憲法の制定による、近代国家としての法整備 中央集権国家の形成 <ul style="list-style-type: none"> 廃藩置県などの政策による、幕藩体制から中央集権国家への移行 議会政治の導入 <ul style="list-style-type: none"> アジアで初めて政党政治の確立 領土の画定 <ul style="list-style-type: none"> 対外的に対等な関係の条約を結ぶ。 アイヌや沖縄を領土に組み込む。 <p>経済</p> <ul style="list-style-type: none"> 二次産業発展による資本主義 <ul style="list-style-type: none"> 殖産興業政策により、官営模範工場の設立や鉄道・電信などのインフラ整備 工業の機械化による合理的かつ機能主義による資本主義経済の確立 地租改正 <ul style="list-style-type: none"> 現金での納税による財政基盤の安定化 富国強兵 <ul style="list-style-type: none"> 列強への対抗を目的とした経済力の強化し、軍事力の増強。 <p>文化・国民生活</p> <ul style="list-style-type: none"> 国民意識（ナショナリズム）の形成 <ul style="list-style-type: none"> 兵役の義務化による軍事力の強化（徴兵令） 統一的な義務教育による教育水準の向上（学制） 文明開化による欧米化 <ul style="list-style-type: none"> 衣食住の欧米化に伴う生活様式の変化。 <p>3 【ペア】板書をもとに、ペアで、全体で話し合った内容を用いたり、構造化したり、また、互いの不足を補つたりしながら、「近代化」の定義をどうするべきか話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 挙手による発表で、絵を用いて「近代化」の定義を説明させる。 前時までの段階で、絵を根拠とするように指導しておく。 絵に表した（もしくは表しきれなかった）感覚的な部分を重視した説明を行うように指示することで、歴史の解釈的な側面を重視する。 多面的な思考を促すために、生徒の発表を、【政治・外交】【経済】【文化・国民生活】に分けて生徒の絵を活用しながら構造的に板書する。 適宜、近代と同じく中央集権だった古代との違いを問うことで、政治や経済の制度が確立した近代の特色を見いだしやすいようにする。また、近世（近代以前）との比較を促すことで、幕藩体制からの脱却等、近世との相違点に気付かせたりする。 議論が欧米との比較になった場合には、欧米は市民が勝ち取ったものであるのに対し、日本は政府から国民に下ろされた考え方であることに気付かせるようになる。 関連する絵や語句を図化して、関係性を明らかにする指示を出す。

※2の活動の途中でも、適宜確認が必要な場合は、ペアや自由に立ち歩いて、生徒同士の議論を行う。

4 【全体】パフォーマンス課題に沿って、「近代化」の定義について、セリフに合うように発表する。

あなたは、小学6年生から質問を受けました。次の（　）に当てはまるセリフを、説明する絵とともに考えてください。

小「小学校では、不平等条約の改正が、日本の近代化が遅れていためなかなか交渉が進まなかつたって習ったんですけど、近代化ってどうなることですか？」

中「小学校では、殖産興業のところで、機械による大量生産を近代的な工業って習うよね。それ以外にもいろいろあるからこの絵を見て。日本における近代化した国っていうのは、（　）国のことだよ。」

小「なるほど！よくわかりました。ありがとうございます。」

「近代化」の定義

○立憲主義の中央集権国家として、議会制度が整っている国であり、ナショナリズムが形成された国民の一体感がある国

○機械化やインフラ整備により、急速に二次産業が発達し、安定的な財政やそれに基づく税制を基盤とした資本主義経済の考え方を取り入れられた国

5 【個】生徒に配布している画集（各自の絵をまとめた冊子）のタイトルを考えて、記入する。

- ・欧米に追いつく日本
- ・欧米の模倣～安定した国内統治をめざして～
- ・不平等条約の改正をめざして など

※ポストテストのみ、次時で行う。

・ペアでの活動は、仮想的教示による理解の深まりや事実認識の誤りを正すことが目的であり、各自の歴史解釈を正したり、ペアで考えを1つにまとめたりすることのないよう留意する。

・机間指導を通して、一面的にしか見られていない生徒には、他の面での特色となるできごとを挙げ、なぜ不要なのかを聞くことで、多面的・多角的に見られるよう声をかける。

・挙手による発表を促し、学習の苦手な生徒への手立てとする。

・本時での他者との関わりが個の考えにどのような影響を及ぼしたかを想起して、記入するよう指示を出す。

(3) 学習評価の視点

- ・「近代化」する日本について、工業の進展や政治と社会の変化、経済の変化による政治への影響など多面的・多角的に考察させることで、古代や近世と異なる「近代化」の定義を表現させることができたか。 【思考力・判断力・表現力】（観察・ワークシート）
- ・生徒それぞれが考える近代の特色を表現するために、必要な資料を考察したり、収集した情報を歴史的な見方・考え方を働かせて読み取ったりまとめたりする活動を通して、「近代化」の説明に必要な要素を理解させることができたか。 【知識及び技能】（観察・ワークシート）

(4) 単元を貫く学習課題のルーブリック

	規準	A	B	C
知 ・ 技	資料読解による正しい理解	歴史的事象を的確に捉え、背景や意図まで深く理解している。	歴史的事象を正しく理解している。	歴史的事象に誤解があり、理解していると言えない。
思 ・ 判 ・ 表	近代の特色の活用	多面的（または多角的）に捉えた近代の特色を理解した上で、絵画作品に表現している。	一面的な近代の特色を理解した上で、絵画作品に表現している。	近代の特色を作品に反映しようとしているが曖昧であったり、誤って表現されたりする。
	根拠に基づく歴史	歴史的事象を根拠として、自身の解釈を作品に加えて表現	根拠は乏しいが、自身の解釈を作品に加えようとして	自身の解釈は乏しく、歴史的事象を羅列している。ま

的解釈	している。	いる。	たは、解釈に無理がある。
創意工夫	表現や語彙、作品に独自性があり、印象に残る工夫がある。	絵画や劇がわかりやすく理解できる工夫がある。	工夫や独自性が乏しい。または、構成に混乱があり整理が必要である。
主体的に…	学びの自己調整	毎時間の振り返りに自身の学びを自己調整する記述があり、本時の学習を基にした次時の学びで明らかにする記述が見られる。	本時の振り返りの記述、または、次時への抱負が見られる。 学びの感想や学びの内容の列挙に終始している。

7 授業観察の視点

- 【個】【ペア】【全体】の学習形態を工夫したり、絵を用いて、「近代化」の定義を表現させたりする活動は、有効な手立てであったか。また、どうすべきであったか。

[主な参考文献]

【方法論】

- ・井上雄太「振り返りとめあてをつなぐ社会科探究学習」、『社会科教育2024年3月号』明治図書、2024年、pp70-73
- ・岡崎誠司『見方考え方を成長させる社会科授業の創造』風間書房、2019年
- ・岡田涼・中谷素之・伊藤崇通・塚野州一編『自ら学び考える子どもを育てる教育の方法と技術』北大路書房、2019年、pp12-22
- ・岡田了祐「美的アプローチによる社会科の学習評価論 - E. W. アイスナーの所論と T. エプスタインの実践を手がかりに - 」日本教育方法学会紀要『教育法法学研究』第50巻、2025年
- ・岡田了祐「社会科におけるE. W. アイスナーの評価論 - アイスナーによる芸術を活用した社会科の構想を手がかりに - 」社会科の評価について考える会編『社会系教科の評価をめぐる理論と実践』風間書房、2023年、pp19-36
- ・三宮真智子『メタ認知 学習力を支える高次認知機能』北大路書房、2008年
- ・富山大学人間発達科学部附属中学校『主体性の高まりをめざして - 課題学習で学校をつくる - 』富山大学出版会、2009年
- ・松下佳代『対話型論証による学びのデザイン学校で身につけてほしかった一つのこと』勁草書房、2022年
- ・松野良彦「対話型A Iを使った学習活動唐実際に授業で対話型A Iを活用した実践報告」、『指導と評価2024年1月号』図書文化社、2024年

【内容論】

- ・青木章浩「風刺画を活用した中学校歴史の授業構成～ビゴーの『トバエ』を手がかりに～」社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』第18号、2006年、pp39-46
- ・礒崇仁「横浜国立大学教育学部附属中学校令和6年度研究発表会 学習指導案」2024年
- ・小風秀雅編『大学の日本史 教養から考える歴史～④近代』山川出版社、2016年
- ・小松裕『全集 日本の歴史14明治時代中期から1920年代 「いのち」と帝国日本』小学館、2009年
- ・清水勲『ビゴーが見た日本人 諷刺画に描かれた明治』講談社学術文庫、2010年
- ・出口治明・半藤一利『明治維新とは何だったのか - 世界史から考える - 』祥伝社、2018年
- ・牧原憲夫『全集 日本の歴史13幕末から明治時代前期 文明国をめざして』小学館、2008年
- ・松山恵『都市空間の明治維新 - 江戸から東京への大転換 - 』ちくま新書、2019年
- ・三谷太一郎『日本の近代とは何であったか - 問題史の考察』岩波新書、2018年